

受賞を契機に新たに取り組んでいること

- 1) 住民がまちの維持管理に積極的に参加できる環境づくり
- 2) 2012年建築協定更新に向けての準備

当住宅地は自治会組織がなく、管理組合が自治会活動の役割を担っており、市(県)広報の配布、回覧、イベント開催など管理組合の一環として実施してきている。

住民間のふれあう機会は少なく乏しいものの、個々では自然の中で暮らす良さを理解し、自分たちの手で住みやすい環境を維持しようとする意識は高い。

まちの維持管理の推進に欠かせない“人間関係＝住民のふれあい”を大切にしながら、住宅地の豊かな緑の維持を図り、野鳥が訪れ四季の草花が楽しめ、子どもたちが安心して遊べることができる環境とするためにも、“住民がまちの維持管理に積極的に参加できる環境づくり”に取り組まなければならない。

今年度については、まちの維持管理の推進に欠かせない住民のふれあいの場を設けることとし、20年3月20日(日)イベントとしてガーデニングと剪定の講習会を開催した。住民の方々が積極的に参加できるよう、事前に回覧によって内容を伝え、専門的知識が得られるようプロの講師をお願いし、魅力ある講習会となるよう環境づくりを図った。



3) 調査検討経費の使途

住民がまちの維持管理に積極的に参加できる環境づくり

- ・住民ふれあいイベントの開催費
- ・他地域まちなみ見学、交流会開催への準備費

2012年建築協定更新に向けての準備費

近い将来取り組まなければならない課題

イベントには多くの方が参加し、“住民がまちの維持管理に積極的に参加できる環境づくり”に一步踏み出せた。

他地域まちなみ見学、交流会開催への具体的な内容については検討中。

現建築協定内容を把握することと、更新に向けてのスケジュール化をしておく必要があるが、具体的な内容は検討中。

2012年に建築協定が期間満了となりますが、当住宅地は生活環境、景観を維持担保するための手法として1992年に奈良市とミサワホーム(株)であらかじめ締結されている。

1993年管理組合設立時に協定委員会も同時に管理組合に継承、管理組合の役員が建築協定委員会も兼ねて今日に至っている。

住民はこの街並みづくりの主旨、ねらい、豊かな環境の中に暮らす良さをよく理解し入居、自分たちの手で環境を維持していくという意識の高いものがある。

今後子どもを核とする家族から、年代構成が変化してきていることから高齢化対応のため、段差解消やアプローチ改修、建物の大規模な改築が予想される中、建築協定は柔軟な視点から見直される必要がある。

協定が変わっても、街並みの景観を保ちつつ、住みやすい環境との調和のため、建築協定について時代に合わせた見直しを住民の合意をもって進める必要があり、2012年に向けてオナーズヒル奈良青山の大きな課題である。